金沢市立森山町小学校

［はじめに］
　本校は金沢市の北部に位置しており、明治１３年１月に開校し、今年度は創立１３６周年を迎えた。全校児童は３３１名、教職員は３０名である。
　校下は、昔ながらの商店街や住宅地が地域の大半を占め、近くに卯辰山や浅野川があり自然環境に恵まれている。金沢の観光名所である金沢城、東山茶屋街に近く、また茶道で有名な寺院も多く、和菓子店、金箔店など金沢の伝統文化を受け継いでいる店も多く残っている。
　ユネスコスクール認定を受け７年目となり、「地域の文化・自然や人との絆」をテーマに、地域の素材・題材を開発・教材化し、体験学習を取り入れた学びのプロセスを重視した持続発展教育の実践に取り組んでいる。

金沢らしさ　地域の文化・自然や人との絆
～知る・関わる・考え行動する・広める～

１　ユネスコスクールとしての取組

３年「発見　和菓子のひみつ」～知る・関わる（和菓子づくり、お茶会など）・広める～

職人さんより和菓子づくりを学ぶ

　７月１日、氷室の日に氷室まんじゅうを食べる風習を調べることで、子どもたちは、金沢には、「夏を元気に乗り切りたいという願い」や「氷室の氷を献上した歴史」があることを知った。和菓子の歴史や種類を調べていく中で、「正月の福梅や雛祭りの金花糖、婚礼の際の五色生菓子など、金沢にしかない和菓子があること」「和菓子には、人々の幸せになりたい願いが込められていること」「季節や行事に合わせて、色や形、図案が工夫されていること」などを学んでいった。
　秋には、自分でつくったお茶碗と和菓子で、お茶会を校下の寺院で行った。お茶会では、相手をもてなす心に触れることができた。和菓子づくりを校下の和菓子職人さんより習い、職人さんの和菓子づくりに込める温かい気持ちに触れることができた。その後、和菓子学習でお世話になった方へ手紙を書くなど、感謝の気持ちを伝える活動へとつながっていった。金沢に根付く文化のよさを感じ取り、「和菓子の消費が日本一である金沢」の人々の生き方に触れ、自分たちも昔から受け継がれてきた風習や、和菓子にこめられた思いを大切にしていこうという気持ちをはぐくむことができた。学んだことは、６年生を送る会に劇で表現し、家族や来校者に伝えた。
　単元の終わりには、和菓子の消費量や和菓子店の数が激減していることに触れ、今後自分たちの町のよさを受け継いでいくためには、どうすればよいか考え、意見を出し合った。

４年「金沢箔」～知る・関わる（職人さん）・考え行動する・広める～

　金箔体験教室「金箔皿づくり」の制作から、「紙より薄いこの金箔はどうやってつくるのだろう？」という疑問を持ち、探究的な学びを展開していった。
　学校の近くの箔屋さんに見学へ行き、金箔を作る工程を実際に見たり、職人さんの話を聞いたりすることができた。また、金箔をつかった工芸品や商品を目の当たりにし、金箔の美しさを実感することもできた。金箔を張り詰めた茶室やトイレには、子どもたちの感嘆の声がもれていた。

金箔皿づくり

　安江金箔工芸館では、箔打ち用の和紙づくりには浅野川が大切な水源となっており、右岸に位置している森山校下には、金箔を打つ職人さんが多くいたこと、職人さんの減少、「金沢箔」の現状などを聞いたりすることで、このままでは「金沢箔」がなくなってしまうのではないかとの思いを持つ子どもの姿が見られた。
　こうした「金沢箔」のすばらしさや現状を知った子どもたちは、自分たちも、今、「金沢箔」のためにできることはないかと考えた。そして、「金沢箔」のすばらしさや学んだことを家族や森山町小学校の人たちに伝えるために金箔新聞を作成した。「金沢箔」という伝統文化を大切にした、森山地下を誇りに思うなどと発表する子どもたちの姿が見られた。

５年「郷土食品『麩』から学ぶ」
～知る・考え行動する（創作レシピ）～

麩を使った料理作り

「麩」は金沢の伝統食品である。多くの子どもたちは、「麩は味噌汁の具」というイメージを持っていた。そこで、「麩のかりんとう」を試食した。麩の意外な味に驚き、麩の料理や麩の原料、麩の作り方などに興味・関心をもったところから学習を始めた。そこで、校下近くにある麩の製造・販売屋さんからお話を伺った。「食の安全」にこだわる社長さんの熱意を目の当たりにし、伝統の技で作り上げる手作りの車麩を、実際に食べさせてもらった。さらに、様々な種類の麩を見せてもらい、その麩を使って「創作レシピを考えて作ってみよう」という意欲が自然と湧いてきた。創作レシピを考える前に、うまみ成分を吸う麩の特質を生かした麩の料理を麩屋さんから教えていただき、麩の特徴を学んだ。そして、麩の特徴を生かして、加賀野菜と麩を組み合わせた創作レシピ作りへ取り組んでいった。

麩屋の社長さんの、「食に対する信念」や「食の安全」についての話を聞く中で、郷土食品を大切に守ることのすばらしさと大変さを学んだ。麩屋の社長さんのように、「安全な食品を提供することが使命である」と言い切ってくれる食品工場が郷土金沢にあるということを子どもたちは、誇りに感じることができた。

６年「思いを込めた加賀友禅　卒業証書台紙づくり」
～知る・関わる（卒業証書台紙作り）・考え行動する・広める（市役所での友禅卒業証書作品展示）

浅野川での友禅流し

本校では、２０年間６年生が加賀友禅の卒業証書台紙づくりに取り組んでいる。卒業式には、自分の加賀友禅の卒業証書をもち、中学校への決意や将来の夢を語る。

子どもたちは、まず「加賀友禅とは何か？」を調べ、草花などを写実的な絵柄にし、「ぼかし」や「虫喰い」といった独特の技法を用いた、品格のある染め物であることを知った。また、浅野川でおこなわれる友禅流しは、金沢の風物詩となっていることなどを学んでいった。次に全工程のうち、青花下絵、糊置き、彩色、友禅流しの４つを友禅の職人さん方に教えていただきながら、体験した。作業は細かく集中力が必要であることから、職人さんの苦労に気づいたり、加賀友禅の仕事に誇りを持つ作家の生き方にふれたりすることができた。

さらに、「現在・今後の加賀友禅」を調べ、着物の売れ行きの減少、後継者不足などの厳しい現状を知り、「自分たちが今できることは何か」を考える学びへとつなげた。まずは金沢市民がこの友禅のすばらしさを再認識することが大切であるとの考えに至り、自分たちが作った「友禅卒業証書台紙」をより多くの人に見てもらいたいと考えた。金沢市の協力を得て、市役所エントランスホールに一ヶ月間、加賀友禅卒業証書台紙作品を展示することができた。子どもたちは加賀友禅の学習活動を通し、地域の文化と人との絆を強め、伝統文化を大切に思う心を育むことができた。

２　成果と課題

・森山の地域にある伝統産業や地域文化を教材化し、他教科との関連を図り、「知る」「関わる」「考え行動する」「広める」の４つの段階を大切にした探究的な学習を進めることができた。ねらいや評価規準を明確にして継続的に学習できるカリキュラムとし、学びの軸がぶれない学習展開を試みることができた。
・子どもたちは、地域の良さを学んだことで、このすばらしい伝統産業・文化を大切にしていきたい、伝えていきたいという想いを持つことができた。
・地域の文化・自然や人との絆を取り入れた体験的な学習を行い、“本物”に出会えたことで、職人さんの生き方や考え方も学ぶことができ、自らの生き方につなげていくことができた。
・アクティブラーニングを踏まえた課題発見能力や問題解決能力を高める指導の工夫が必要である。その際、課題に対する「学び方」について教師が共通理解を図り、「学び方」を教え、積み上げていく事で、主体的・協働的な探究学習に取り組む。